

中心市街地活性化へ 基本計画が国の認定 を受ける



▲基本計画に基づいて活性化をめざす
市の中心市街地

11月27日、市の中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受けました。今後、この基本計画に基づき、JR三原駅前を中心とした中心市街地の活性化に向け、さまざまな事業の実施が予定されています。

基本計画は、平成33年3月までの5年4カ月を計画期間とし、本町、館町、城町、港町、円一町を含む、約90ヘクタールの中心市街地でのにぎわいの創出や商業の活性化などにつながる事業の実施計画を定めたものです。

今回、認定を受けたことで、国の補助制度などが利用できるようになります。古民家や空き店舗などを活用し

た事業など、計画した52事業を着実に実施できるよう、三原市中心市街地活性化協議会やまちづくり会社を中心とした推進体制のもと、民間と行政が一体となって取り組んでいきます。

商工振興課

☎0848・67・6072

ふるさと納税額が 過去最高へ

市へのふるさと納税が増加しています。今年度の寄付額は10月末時点で3,727件4,210万円と前年度実績の約2倍に達しており、年度通年の寄付額が過去最高となりました。より納税しやすい仕組みを取り入れ、返礼の産品を増やしたことが功を奏しました。

ふるさと納税は、市外の人が生まれ故郷や応援したい自治体に寄付することで、税の控除が受けられる制度です。そ



▲ふるさと産品として1番人気のある佐木島のみかん

の返礼として、各地の魅力的な産品を受け取れることでも人気を集めています。

市では今年度、利用者が希望する自治体への納税をクレジットカードで決済できるホームページへ登録しました。また、従来は年度に1回だった産品の贈呈を、寄付の回数に応じて何度でもできるようにしたほか、産品の種類を増やしたり、寄付額に応じたコースを設定したりするなど、魅力を高めました。

ふるさと納税による寄付は子どもの健やかな成長を応援する事業、自然環境を守る事業などに活用します。今後とも、継続的に市の情報を発信し、市外の人からも応援してもらえるように取り組んでいきます。

地域調整課

☎0848・67・6011

新たな地域福祉の担い手 民生委員協力員が 活動を開始

市は先月から、民生委員・児童委員の活動を支援する「民生委員協力員」を設置しました。先月1日、市役所で行なわれた依頼式で天満祥典市長が依頼状を交付し、新たに民生委員協力員となった10人が活動を始めました。

民生委員協力員は、市からの依頼を



▲天満祥典市長から依頼状を受け取る
民生委員協力員の皆さん

受け、民生委員・児童委員と連携し、高齢者の見守り活動などを行なうボランティアです。見守り対象者の自宅を訪問し、安否の確認や行政からの情報提供などを行います。

近年、市内では一人や夫婦だけで暮らす高齢者など、見守りが必要な人が増えていきます。民生委員・児童委員の重要性が増す一方で、負担増やなり手不足が問題になっており、活動を支援し、きめ細やかな地域福祉を実現するため、民生委員協力員を設置しました。

依頼式で天満市長は「民生委員・児童委員の補佐役となって、地域福祉の中心として活躍されることを期待しています」と激励しました。

高齢者福祉課

☎0848・67・6055

沼田西小で認知症 サポーター養成講座

先月14日、沼田西小学校の5・6年生17人が認知症サポーター養成講座を受講しました。市内の小学生が講座を受けるのは今回が初めてです。認知症への理解を深めてもらおうと、市と高齢者相談センターが実施しました。

認知症サポーターは「認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者」です。児童は高齢者相談センター 大空(下北方一丁目)の職員から説明を受け、認知症が脳の病気であることや、認知症の人がちょっとした手助けや優しい言葉で生活しやすくなるなどを学びました。

講座では、祖父母が「頼まれていた手紙を出すことを忘れてしまった」「食事を済ませたことを思い出せない」などの



▲寸劇などで認知症の人への対応を学びました

設定で、寸劇も行なわれました。孫役として参加した児童は、講座で学んだ知識を生かし、「明日一緒に手紙を出しに行こう」「あやとりをしてご飯の時間を待とう」などと話し掛けていました。5年生の大田風葵君は「認知症がどんな病気かわかりました。困っている人を見かけたら、やさしく声を掛けてあげたいです」と話しました。市では今後も、小・中学生のサポーター養成を進めていきます。

高齢者福祉課

☎0848・67・6055

深町太鼓踊りと大和の神楽が市文化財に

市は11月25日、無形民俗文化財として「深町太鼓踊り」と「大和の神楽」を新たに指定しました。これで市指定の文化財は204点、このうち伝統芸能などの無形民俗文化財は10点になりました。

深町太鼓踊りは、豊作と家内安全を願って、お盆に地域の神社や集落で奉納されています。踊り手は抱えた太鼓を歌いながら叩き、周囲では鉦を打ち鳴らします。

江戸時代後期には始まっていたとされ、一時廃れていましたが、昭和40年頃に青年団が活動を再開させました。現在は深太鼓踊り壮年会と深小学校の

児童で保存会を結成し、伝承しています。

大和町内で奉納されている神楽は、各地区の保存会からなる大和町連合神楽保存会で継承しています(詳しくは23ページを参照)。連合保存会は、後継者が減っていく中、合同研修会などで伝承に努めています。

また、すでに重要文化財として指定していた「筋原のシナノキ」は、専門家による鑑定で樹種が誤っていたことがわかったため、「筋原のマンシユウボダイジユ」に名称を改めました。



▲深町太鼓踊り

文化課

☎0848・64・9234

やつさだるマン 惜しくも全国477位

全国のご当地キャラクターなどが人気を競う「ゆるキャラグランプリ20



▲市民の皆さんの応援に感謝するやつさだるマン

15」が終了し、初出場の市公式マスコットキャラクター「やつさだるマン」は出場した1,727キャラクター中477位、広島県内で8位でした。投票していただいた市民の皆さん、応援ありがとうございました。

グランプリは、昨年8月中旬から11月中旬までの約3カ月間、全国のご当地や企業のマスコットキャラクターがインターネットによる投票で人気を競いました。やつさだるマンは4,898票を獲得しましたが、目標の全国450位には惜しくも届きませんでした。やつさだるマンは現在、全国放送のテレビCMにも出演し、人気上昇中です。今後もさまざまなイベントなどに登場して三原をPRしますので、応援をお願いします。

築城450年事業推進担当室

☎0848・61・0450